

## 6. 整形外科研修プログラム（選）

### 1. はじめに

通常の診療において整形外科疾患の占める領域は外傷、変性疾患など多岐にわたり、運動器の疾患という点から日常生活に大きな影響を及ぼし迅速かつ適切な対応が要求される。適切な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得し、初期救急外傷に対応できる基本的な診察能力を理解することを目標とする。

### 2. 指導体制

浅井 聡司 日本整形外科学会 指導医・専門医

### 3. 研修期間

- 1) 2年間の研修期間中、最初の1年のうち、2週間、必修として研修を行う。  
選択科目の中で、研修2年目の必須科目が終了した後半の8ヶ月の選択期間中に原則として2ヶ月の期間を自己選択できる。
- 2) 研修スケジュール  
週1回のカンファレンス、地域学術研究会の参加・発表

### 4. 研修の目標

<到達目標>

#### 1) 整形外科外来

骨・関節の身体所見、神経学的所見がとれ評価できる。  
基本的な検査結果が評価できる。画像（X線・MRI・CT・ミエログラム）  
血液生化学・尿・関節液・病理組織

#### 2) 基本的な整形外科検査

脊髄造影・神経根ブロック・関節造影等

- 3) 一般的な外傷の診断、応急処置
  - 四肢の骨折、脱臼、靭帯損傷
  - 神経・血管・節腱損傷
  - 脊椎・脊髄外傷の治療上の基本的知識の修得
  - 開放骨折の治療原則の理解

- 4) 手術
  - 助手として手術に参加
  - 基本的外科的手技の修得

- 5) 入院
  - 術前、術後の管理
  - リハビリテーション後療法の基本的知識の修得

## 5. 指導評価

- 1) 履修項目について、適宜指導医により評価を受ける。
- 2) 整形外科専門医研修ガイドラインにそって、自己評価を行う。
- 3) 研修終了時に、指導医は総括評価を行い、修了認定を行う。